

就労継続支援 B 型事業

「ぬくもり弁当」事業計画 平成 29 年度

1. 目的

地域で生活する障害者の方々を対象に日々の援助と生産・サービス活動を通じて、利用者個々の地域社会での自立と社会参加を促進し地域の拠点としての事業所を目指す。

2. 方針

ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者が地域社会から隔離されることのない「完全参加と平等」を目標に掲げ、福祉サービスの提供をし、利用者ひとりひとりの人生を豊かにするための支援と誰もが住みやすい地域社会の環境づくりに貢献していく。

作業・行事その他全ての活動が利用者主体であることを大前提とし、利用者の主体性・自己決定を尊重した上で本人のエンパワーメントに着目する。

また、家庭との連絡調整を密にし個々の能力に応じた支援を心がける。

3. 事業内容

- ・お弁当の製造・販売
- ・エコバッグ販売（道の駅受注品）
- ・布バッグ販売
- ・イベント販売
- ・しいたけカレーや佃煮等の仕入れ販売
- ・オードブル・惣菜・イベント用お弁当
- ・魔法のたわし等工芸品の製造販売
- 製造・販売。（休祝日も注文対応可）

4. 営業日及び営業時間

- ・営業日は、月曜日から金曜日（但し、祭日・お盆・年末年始は、休）
※注文により祝祭日も営業
- ・営業時間は、午前 8 時 45 分から午後 5 時 30 分

5. 利用定員

20 名

6. 従業者の人数

管理者（生活支援員兼務） 1 名 サービス管理責任者 1 名
生活支援員 1 名 職業指導員 1 名 計 4 名

7. 利用者作業工賃

1 時間平均 ¥350-

6. 事業所理念

(1) 利用者のための事業所

- ・利用者を障害の種類や程度で分類しない
- ・利用者のニーズや条件に合った対応の実践
- ・利用者の生活条件の整備
- ・生活の質の向上に対する調査・研究・実践
- ・安易な保護管理をしない事業所

(2) 利用者の権利が保障される事業所

- ・利用者が中心であること
- ・利用者の主体性・選択を尊重する
- ・能力や特性を發揮できる条件の整備
- ・労働の場の保障
- ・社会参加の場の保護
- ・家族との連携の中での日常的な支援の保障
- ・人生を楽しむ場の設定

(3) 運営の透明性

- ・講演会・学習会を通じて、活動の啓蒙
- ・地域社会と協力しあった形での運営
- ・情報公開をする開放的な事業所
- ・福祉サービスの質及び苦情などに対して、客観的評価システムのある事業所

7. 支援の重点目標

- (1) 情緒の安定、心配事や悩みに対して速やかに対応する
- (2) 基本的な生活習慣、生きる上での生活リズムの成立
- (3) 作業への積極的取り組み、仕事の喜びを味わっていただく
- (4) みんなが協力しながら作業に取り組めるような雰囲気・環境の整備。
- (5) 生活支援や作業支援を通じて社会的自立につなげる
- (6) 利用者の心や、体の健康に対する支援
- (7) 地域社会とのつながりを大切にしながら自ら社会貢献することにより障害者のあたりまえの社会参加を目指す

8. 支援体制

家庭との連絡を密にし利用者の特性や生活習慣を理解した上で、生活支援・作業支援を行う。又、障害の状態や能力に応じた活動や一般生活に近い環境づくりを通じて個々の利用者が地域の一員として生活できるよう支援していく。

9. 生活支援計画

職員からの指導・教育ではなく、自ら体験の中で感じ取って人としての豊かな人生を生きてほしいという視点で支援していく。

(生活支援目標)

- (1) 日常生活に必要な基本的な生活習慣の確立をめざす。
日常生活の基本である生活リズムの確立をはかり、情緒の安定を目指す。
- (2) 集団生活への積極的参加と協調性を養う。
集団での活動により、他人に対する思いやり、ふれあい、つながりを深める。
- (3) 自分の身体状態を知り健康安全の意識を高める。
日々の健康状態の把握に努め、早期発見、早期治療を心掛け健康で豊かな生活を営めるようにする。
- (4) 自分の役割・分担を果たすことにより責任感を養う。
- (5) 家庭との連携をはかる。
家庭との連携に努め、協力しあって利用者の豊かな人生につながる支援をする。
- (6) 余暇活動を充実させ、豊かな人生につなげていく。
適切な支援システムやプログラムの作成をしていく（個別支援計画）

10. 作業支援計画

利用者ひとりひとりに適した作業種目の設定をし達成感や責任感を養い、適正な評価を行い向上心を持って作業に取り組んで労働して頂く事により賃金を獲得する喜びと労働の充実感を得て自立・就労への準備とする。

※評価とは適正な判断を行うという事で物理的及び賃金評価ではない。

(作業支援計画)

- (1) 基礎的な作業能力の修得をはかる。
- (2) 作業を最後までやりぬく責任感を養う。
- (3) 利用者や職員と協力して作業をすすめる協調性を養う。
- (4) 作業を通じて人間関係の適応性を養う。
- (5) 利用者の自信となるような作業内容を見出す中で労働意欲を高める。
- (6) 作業工程を細分化し可能な範囲で利用者に手掛けていただき、想像力・集中力を高める。
- (7) 職場実習先の開拓・一般就労先の開拓

11. 職員指導・職員教育

利用者支援等のスキルアップを図り、状況にあった支援が行える様指導していく。

- (1) 業務理解を一層深め、作業手本となる様な行動を行って頂く。
- (2) 支援方法の統一化と支援方法の見極め。
- (3) 業務時間活用の見直しと、全体で問題解決を行う。
- (4) スキルアップにより自信・実績を持って頂き自身向上・業務向上を図る。
- (5) 継続的な業務従事をして頂けるよう配慮を行う。

1 1. 年間計画

月	内容	販売会等	親睦会
4月	職員研修、美化活動		
5月		道の駅販売会	
6月	避難訓練（防災・火災含む）		春の行事
7月	健康診断	道の駅・観光祭り	
8月		ビアガーデン フリーマーケット	夏の行事
9月			秋の行事
10月			
11月			研修旅行
12月	クリスマス会		
1月			新年会
2月	避難訓練（防災・火災含む）	ウインターフェスタ	
3月			総会

1 2. 販売計画

(販売事業)

- ・販売先を広げ新規顧客拡充の見通しはある為、継続して活動を行う。
- ・営業活動におけるシステムの見直しを行う。
- ・個々の個性を生かした営業方法を実践の中から見つけ、利用者対顧客という関係を作り顧客の固定化や、発信者となって頂く。
- ・お客様へアンケート調査をし、ニーズに合わせたものに変えていき顧客離れを防ぐ。
- ・新商品の開発を行う。また、調理製造部門に顧客からの声をきちんと伝え、ニーズが反映されているかを示す。
- ・商品のポップや包装のデザインを定期的に変え、工夫を行う。
- ・弟子屈町の行事や販売会へ積極的に参加し、「ぬくもり弁当」をアピールする。また、参加する事により、日頃よりお世話になっている地域への還元も期待される。

(調理・製造事業)

- ・個々の能力を引き出した導線を確認する事で調理・盛り付けを行う事でスムーズ且つ無駄の無い流れが作れる為、細かな調整と的確な状態把握を行う。
- ・メイン食材の調理に携われる利用者の拡充。
- ・次の日を見越した動きを行っていく。（食材の仕込み等）
- ・衛生管理の徹底及び、勉強会を行う。
- ・新商品の開発を行っていく。

12. その他

- ・町内イベント・販売会への積極参加をする事により、地域社会への還元と社会参加への足掛かりとなる。また、宣伝普及にもつながる。
- ・作業の内容を定期的に確認し、全体ミーティング等を利用して、利用者全体で話し合い改善を図っていく。
- ・年二回の防災避難訓練及び啓発活動を行っていく。

- ・理念に基づいた完全参加とは？平等とは？を日々職員が模索していく。
- ・「人数=マンパワー」という強みを生かす事が社会平等や事業拡充の大きな基盤になっていく。